

# 「防災道の駅」の社会実験に 取り組むまで

## ●自然災害と「道の駅」

新潟県中越地震、東日本大震災の発生をきっかけに、「道の駅」が防災や避難者支援に果たすことができる役割がクローズアップされました。それまで「道の駅」は【休憩機能】【情報発信機能】【地域の連携機能】の三つの役割でしたが、さらに近年は【防災機能】の点でも期待されるようになってきました。

## ●防災道の駅とは

2021年6月、国土交通省により、「道の駅」の第3ステージの取り組みの一環として、都道府県の地域防災計画等で、広域的な防災拠点に位置付けられている「道の駅」から全国39か所が「防災道の駅」として選定されました。その中には東北から5か所の「道の駅」が入っています。

## ●道の駅いいで果たす役割

「防災道の駅」として認定された道の駅いいででは、「防災道の駅」が果たすべき役割について考え、それらを形にする実験に取り組んだのが、この度の社会実験です。

ハード・ソフト両面から、従業員や地域の自治会、行政等による社会実験組織を立ち上げて取り組み実験を行い、知見を得て他の「道の駅」の防災化への方向性となるモデル事例やガイドラインの構築を示すことを提案し、以上のような社会実験を、産官学民の協働により実施いたします。



# 2023年の取り組み

2023年9月に講演とワークショップ、企業展示を、同年11月に宿泊と炊き出し実験を行いました。講演・ワークショップでは、道の駅の防災への取り組みについて理解を深めるとともに、道の駅いいで課題抽出と提言が行われました。企業展示では、情報や衛生環境などへの取り組み内容の説明と実演の後、道の駅いいで防災設備の確認と道の駅スタッフによる稼働予備実験を行いました。

宿泊実験では、24名の参加があり、夕食と朝食の炊き出し実験、防災トイレの詳細実験を行いました。参加者アンケートから、道の駅と防災に対する理解が深まり、宿泊実験では、多様な意見・感想から、宿泊・炊き出し・トイレや衛生面等様々な課題について知見を得ることができました。

## 8日 主な実験内容

- ①防災セミナー
- ②アンケート調査
- ③協力企業提供防災機器等の提案と実演
- ④ほか

## 9日・10日 主な実験内容

- ① 宿泊実験
- ② 炊き出し実験
- ③ 地域連携団体との連携
- ④ 災害対策車等デモンストレーション
- ⑤ ワークショップ
- ⑥ アンケート調査
- ⑦ ほか



**宿泊実験  
炊き出し実験  
参加者募集**

集合先/道の駅いいで  
2階 コンベンションホール

### 宿泊実験

トレーラーハウス、テント、「道の駅」内施設で、段ボールベッドなどを使って1泊していただきます。

### 炊き出し実験

避難者が自分たちで炊き出し料理を作ったり、「道の駅」が避難食を作って提供したりする予定です。

## 協議会構成メンバー

協議会構成員 (2024.9.30現在)

組織名(団体名)	代表者名
山形県飯豊町	町長 後藤 幸平
道の駅いいで	駅長 安達 純一
東北「道の駅」連絡会	会長 後藤 幸平
特定非営利活動法人 東北みち会議	理事長 菊池 太一
特定非営利活動法人 人と道研究会	代表 松本 順子
北海道文教大学人間科学部 地域未来学科	学科長教授 熊野 稔
福島大学理工学類社会計画コース	教授 川崎 興太
国土交通省山形河川国道事務所	事務所長 森田 裕介
山形県県土整備部	部長 小林 寛

## 協力企業・団体

(2024.9.30現在)

- 一般社団法人ルートスクエア
- 株式会社PARKER
- Gテクノ株式会社
- 国立研究開発法人情報通信研究機構
- 株式会社三陽電設、CMN株式会社
- 株式会社千代田組
- 株式会社カワハラ技研
- 住友電気工業株式会社
- 株式会社タメルラボ
- 江崎グリコ株式会社
- シャチハタ株式会社
- 株式会社オアシスMSC
- 株式会社NOAA
- 株式会社かます東京